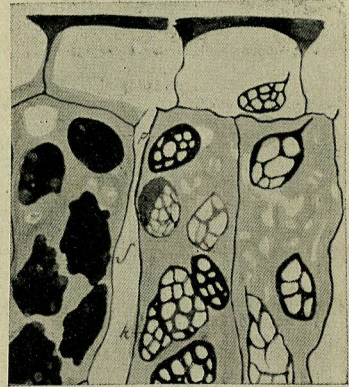


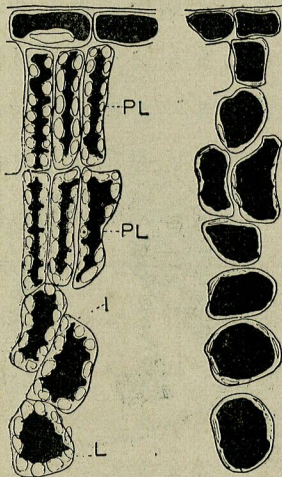
の葉綠粒は蛋白質を以て充實し中に灰色をなせる脂肪體を含有して居るが、斑葉病葉の夫れは網目狀を呈し内容は悉く脂肪狀物質で、オスミック酸で灰色に染まり網だけが蛋白で赤く染る。

(第229圖)、葉綠體に化生すべきミトコンドリアは正常細胞では小桿狀であるが病葉細胞では往々膨脹し砂瓢狀を呈する。其後 REED は病葉に於ける柵狀組織は著しく短縮し横扁たくなると指摘し



第229圖 正常葉と斑葉病葉との葉綠粒(左・正常葉, 右・斑葉病葉)共に柑代々葉斷面(DUFRENOY)

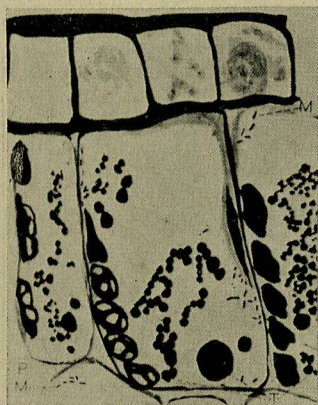
た。(第230



第230圖 正常葉(左)と病葉(右)の斷面 PL, PLは2個の柵狀細胞IはLに示せる海綿狀細胞上層に於ける中間細胞, 球狀體は葉綠粒, 黑色部は空胞(REED & UFRÉNOY)

圖)之を廓大して見ると葉綠粒は大抵一方に偏在し細胞質網にて連結せられて居るが空胞は他方に位し極めて大形で中に代謝停滯成生物たるフェノール性沈澱物質を多量に含有して居る。(第231圖)更に詳細に稚き病葉の生體染色により一海綿狀細胞を觀察すると(第232圖)細胞の大空胞と反對の側に葉綠粒あり,其の内部は脂肪粒を含む事前に等しい,時に細胞質中にも脂肪粒を見る(圖F),又ニュートラルレッドで染色すると細胞質中にも小空胞が多い事が分り,ニエメッツ氏

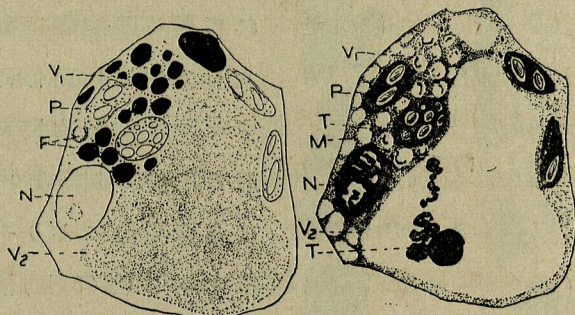
液で染色すると減少したミトコンドリアの存在竝に空胞中のフェノール性沈澱物がよく分る。



第231圖 斑葉病に侵されたる甘代々葉の肥大せる柵状細胞。 P 葉緑粒(左方に偏在), M ミトコンドリア(減少), T 空胞中のフェノール性物質
(REED AND DUFRÉNOY)

更に展葉前の芽を固定して鏡檢すると、正常葉では中央に大形の仁を含む細胞核あり、その周囲の細胞質の中にはまだ葉緑粒を分化してゐないがミトコンドリアは正に之を分化せんとして居る、而してフェノール性沈澱物は極めて少い。然るに病枝の芽の細胞を見ると仁は小さく時に2分し、ミトコンドリアは減少し、空胞は未だ過大にはなつて居ないが早くもフェノール性沈澱物が多數存在する。又ミトコンド

リヤは時に澱粉造成體に變生して居り明かに生長抑制を受けた細胞の特徴たる澱粉貯藏活動の増加を示して居る、葉緑粒も

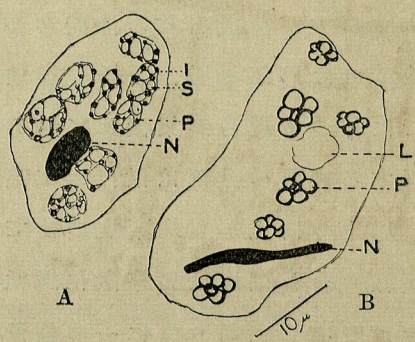


第232圖 病葉の海绵状細胞。(左・ニュートラルレッドで染色したもの、右・ニエメッツ氏液で染めたもの) V₁ 小空胞 V₂ 大空胞, P 葉緑粒, F 脂胞粒, N 細胞核, M ミトコンドリア, T フェノール性沈澱物
(REED AND DUFRÉNOY)

早く葉緑素を失へるものがあり、脂肪粒多く時に澱粉を集積して居るものもある、之はニエメッツ氏溶液で固定し鐵明礬へマ

トキシリンで染色すると容易に分る。又新生葉の柵状細胞は2倍程肥大するのみならず横に分裂して菱形となる事がある、之はモザイク病植物の葉に於けると殆ど似て居る、かゝる細胞では核は長く伸び、仁は無

くなつて居る、空胞の廓大、フェノール化合物・フィトステロール(レシチン)等の含有、膜状化せる薄い細胞質と長い絲狀の變形ミトコンドリア等を認め得る(第233圖)。是等の状態は嫩葉よりも新生葉の方がよく分る。又病葉柵状細胞のプラスモリスを起す滲透壓はデキストロー



第233圖 正常の葉肉細胞と斑葉病の夫れとを比較す。
 A. 正常葉 B. 斑葉病葉 N. 細胞核
 P. 葉綠粒 S. 澱粉粒 L. レシチン
 Bに於ける葉綠粒は多數の脂肪粒を含む。
 (REED AND DUFRÉNOY)

ス溶液 2M 乃至 2.5M に匹敵するが正常葉では 3M である、此の滲透壓の下降も亦モザイク病葉の場合に似て居る。又プロモクレソールグリーンの色調反應に基づく空胞液の酸度試験を行つたが共に pH 4.0 で正常葉病葉の差は少なく、孰れも鐵鹽を溶液狀に保たしめるに充分であると分つた。

次に硫酸亞鉛の土壤撒布又は噴霧器撒布により恢復した斑葉病葉の細胞を鏡檢すると、細胞の形こそ變化せぬが葉綠粒は正常に形成せられ其の分布も一樣に行つてゐる。今マイクローム斷片灰像法により電氣爐中で初め 500°C で 3 時間、次に 600°C で 2 時間灼熱して斷片をソヂウム・ニトロプルッサイドで所理すると恢復した細胞には多量のニトロプルッサイド亞鉛の結

晶を認め得る。又亜鉛撒布を行つた葉の断面灰像を暗視野照明法により鏡檢すると柵狀細胞に多量の石灰が分布するに反し病葉では殆ど石灰を含まぬ事を知る。未開の芽では反對に病葉の方が蓚酸石灰の沈澱が多いが其の理由は猶不明である。成葉では病氣の場合澱粉の形成が抑制せられて居るに反し芽では却つて澱粉が集積して居る事實(既述)を想起するが是等相反する事實の證明は猶出來て居ない。

以上の研究から斑葉病の依て生ずる經路を檢討して見る。葉綠を含む細胞は元來酸化還元作用に對する或るポテンシャルを有して居り常に一の微量代謝作用 Micrometabolism を營んで居る。然るに斑葉病植物には分析の結果亜硝酸鹽類の存在する事が確められて居るが、之は還元不良の證明で其の爲めに代謝機能を害せられ有毒作用を呈するのである。一方酸化作用は細胞活動の原動力である、然るに細胞質中に存する半酸化代謝物質(レンチンの如き)の存在は蛋白質或は炭水化物の酸化作用の不良を示して居る。即ち斑葉病葉には酸化還元共に不十分である事がよく分る。然らば何が是等細胞の酸化還元を調節するかと云ふと、HOPKINSによるとどの生きてゐる細胞にも存するシステイン・Cysteinの如きSH化合物である、而して之がシステイン Cystin の如き物質に酸化するには或種金屬化合物の媒助作用が必要である事も分つて居る、而して是等金屬は何であるかと云へばFe, Cu, Mn, Zn等を數へ得るが、鐵は既に用途がありアミノ酸の酸化割合はFe存在の割合に比例する事が分つて居るから、SH化合物の活動には前記ニトロプルッサイド反應の示す如くZnの存在が必要であると考へるのが至當であ



る。即ち新生細胞葉の柵状組織に其の集積する事、亜鉛撒布により細胞核、纖維状細胞質等は常態に復し、正常の葉緑粒を形成するの事實は之を證するものである。即ち亜鉛化合物は酸化還元作用の平衡に缺く可からざる物質で、之が缺乏すれば直ちに細胞質と其の含有物との間の均衡を失し細胞中に有毒物質を集積し斑葉病の病理的症狀を呈するに至るものである。

参 考 文 獻

- CAMP, A. F. The use of zinc sulphate on Citrus. *in* Citrus Indus. 15 (10): 16, 18, 1934.
- Progress in zinc sulphate studies. *in* Citrus Indus. 17(3): 12, 14, 1936.
- CHANDLER, W. H., HOAGLAND, D. R., AND HIBBARD, P. L. Little leaf or rosette of fruit trees. *in* Proc. Amer. Soc. Hort. Sci. 28: 556—560, 1931; 29: 255—263, 1932; 30: 70—86, 1933; 32: 11—19, 1935.
- DUPRÉNOY, J. A cytological study of water-soluble and fat-soluble constituents of Citrus. *in* Journ. Agr. Res. 38(8): 411—429, illus., 1929.
- & REED, H. S. Effets pathologiques de la carence ou de l'excès de certains ions sur les feuilles des Citrus. *in* Ann. Agron. 4: 637—653, illus., 1934.
- HAAS, A. R. C. Some nutritional aspects in mottle-leaf and other physiological diseases of Citrus. *in* Hilgardia 6 (15): 483—554, 1932.
- HAYMAN, W. P. Effects of zinc sulphate on frenched Citrus in Polk County. *in* Citrus Indus. 15 (11): 10, 26, 1934.
- JOHNSTON, J. C. Zinc sulphate, promising new treatment for mottle-leaf. *in* Cal. Citrogr. 18(4): 107, 116—118, 1933.

- Experiments in mottle-leaf control. *in* Cal. Citrogr. 19(6) : 148, 159, 1934.
- Suggestions on mottle-leaf control for Tulare county. *in* Cal. Citrogr. 21 (5) : 159, 1936.
- KELLY, W. P. Some erraneous ideas concerning mottle-leaf. *in* Cal. Citrogr. 20(8) : 234, 1935.
- PARKER, E. R. Effects of certain zinc sulphate sprays for mottle-leaf of Citrus. *in* Cal. Citrogr. 19(8) : 204, 1934.
- Experiments on mottle-leaf by spraying with zinc compounds. *in* l. c. 20(4) 90, 106—107, 1935.
- Experiment on the treatment of mottle-leaf of Citrus trees. *in* Proc. Am. Soc. Hort. Sci. 31(1934)Suppl. 98—107, 1935.
- REEDS, H. S. The disorganization of cells of mottled orange leaves. *in* Amer. Journ. Bot. 18(10) : 892—893, 1931.
- & DUFRÉNOY, J. Effets de l'affection dite "mottle-leaf" sur la structure cellulaire des *Citrus*. *in* Rev. Gén. Bot. 46 : 33—34, 1933.
- — Détection histochimique du zinc dans les feuilles de Citrus. *in* Compt. Rend. Sci., Paris 198 : 1535—1537, 1934.
- — Effects of zinc salts on the oxidation process in plant cells. *in* Science, n. s. 82 : 249—250, 1935.
- — Modifications in cell structure accompanying mottleleaf of the orange. *in* Amer. Journ. Bot. 22 : 311—328, 1935.
- — The effects of zinc and iron salts on the cell structure of mottled orange leaves. *in* Hilgardia 9(2) : 113—137, illus., 1935.
- 田中長三郎 斑葉病問題(最近の柑橘諸問題1.) *in* 熱帯園藝 5(3) : 225—228, 1935.
- 柑橘斑葉病に對する除害試験の經過 *in* 熱帯園藝 6(1) : 78—82, 1936.



附 録 第 一

日 本 柑 橘 種 類 便 覧

田 中 長 三 郎 著

凡 例

1. 本邦各地に知られる柑橘各種類の名稱は方言が多く、又正名に據らずして異名とすべきもので呼ばれて居る事も多い。夫等種類の正名を知る事は頗る必要であるが、今日まで一目の下に之を集めたものがない、故に本便覧は之等を集め、又同時に本書に記載した基本種に漏れた雑柑を合せて少許の解説を加へ、此の缺を補ふ事とした。
2. 本便覧には本文に掲げた基本的種類は其の名稱が他の異名に用ゐられて居る外は之を總て省略した。又些々たる雑柑の略したものも多い。
3. 書上の異名は著者が其の實物を審査せざる限り總て之を略した、支那名で本邦で實際用ゐられて居ない名稱もいくら彼の地で普通であつても之を省いた。
4. 名稱の内出来るだけ正名との引合せをしたが、猶鑑定不十分のものは何々の異名と云ふ事を斷言し得なかつたものがある。殊に小地方の種類に於て然りである。夫等に對しては將來引合せを作る爲め、讀者には機會があれば是非掲出した名稱の品を著者に送附せられん事を希望する。
5. 本便覧は急に思ひ立つて作つたものであるから不備の點は少なくないと思ふ。讀者の批正を待つ。
6. 名稱の順序は發音のアルファベット順とした。

A

- 赤蜜柑 大紅蜜柑の異名（薩摩）。
- 赤夏 旭柑の圓形品種。
- 赤ツラ 大紅蜜柑の異名（紀伊）。
- 甘夏蜜柑 大身甘橙に同じ。
- 穴門蜜柑 アナドミカンと讀む伊豫蜜柑の異名
- 安政柑 ザボンの一品種（和歌山縣）。
- 安東蜜柑 靜岡縣の山吹に似たる中果變種系（代々區）の一雜柑。紀伊田邊産。
- 旭柑 絹皮に似濃色なる一中間變種系（ザボン區）雜柑・臺灣の虎頭柑に類似の種。

B

- 紅金柑 四季橘の異名。
- 紅蜜柑 大紅蜜柑・小紅蜜柑・大柑子等の總名。
- ボンボロ 本邦初期輸入の Pomelo 即ちグレープフルーツにして攝州池田の苗木場に産があつた。
- ブーケー Bouquet des fleurs. 西洋代々の一變種で其の葉密なる種類（興津園藝試驗場）。
- 文旦 ブンタン又ボンタンと言ふはザボン（ジャボン）と同意義に用うるも臺灣では麻豆の如き小果早熟長卵形のもののみに充て、ザボン即ち臺灣名柚と分つて居る。
- 佛手柑 シトロンを言ふ普通の正常果を結ぶを丸佛手柑と言ひ、果掌狀に分岐せる無肉の變種を手佛手柑と言ふ。又長崎縣にて宇樹橘の一異名。又土佐柚の異名（土佐）。

C

- 丁字蜜柑 三寶蜜柑の一異名（鹿兒島）。



D

- 大政橋 ダイジャウキツと讀む、ザボンの一品種（紀伊）。
 大橋 濟州島産小果寛皮柑橘の一種。
 大柑子 *Citrus bnikoiji* HORT. 一名紅柑子、海梨に類する外皮平滑濃色なる寛皮類、古來朝鮮及び本邦に産する。濟州島では單に柑子と呼ぶ。
 ダンカン Duncan. グレープフルートの一品種。有核品の代表的品種。
 洞庭橋 濟州島産の一寛皮柑橘。支那温州府の甌柑 *Citrus suavisissima* HORT. ex TANAKA と同一。

F

- フクレミカン カウジの扁平にして外皮甚だ寛なる一變種。ユカウとも言ふ（相州地方）。
 福州蜜柑 小紅蜜柑の異名（紀伊）。
 芙蓉柑 九年母の一品種（高知縣田村氏）。

G

- 月橋 四季橋の一異名。別に *Murraya* 屬の月橋あり。
 宜母子 本來は廣東レモンの異名なるも本邦にてモチユ或はスダチの漢名として誤用する。
 ゴールデン・ナゲット Golden nugget. ワシントン、ネーヴルの果面黄色にし油胞少き一品種。
 御前香橙 旭柑に似たる一雜柑（立花伯農園）。

H

- 白柚 ジャボンの白肉品の臺灣名、之にも早晩各品種がある。臺灣音ベイユ。麻豆早生白柚は最優良。
 羽地蜜柑 ハネデミカンと讀む、九年母の一名、沖繩縣の同産地名よ

- り来る。
- 花 柚 ユズの一雑種、小果なるも花は佳香ある故之を觀賞する。
- 八朔ザボン 單に八朔とも言ふ。中果變種系(代々區)雜柑。姫ザボンに酷似する(廣島縣因島産)。
- 瓶 橋 濟州島唯一の經濟種、小果寬皮柑橘の一種で慢橋に近い。
- 臍 平 小蜜柑の臍ある一品種(靜岡縣)。
- 臍蜜柑 ワシントン・ネーヴルの一異名。又廣島縣にて宇樹橘の異名。又土佐にて地蜜柑の異名。
- 肥後蜜柑 紀州蜜柑(小蜜柑)の普通品種。
- 姫文旦 グレープフルーツに類する小形の中間變種(ザボン區)(長崎縣産)。
- 姫ザボン 中果變種系(代々區)雜柑の一、外形山吹に似るも室數多く果肉濃色(廣島縣因島産)。又金柑子(福岡)の異名。
- ヒメレモン 廣東レモンに與へられた早田博士の新種名。
- 日の丸 外觀山蜜柑に近き中間系雜柑(ザボン區)の一品。果肉淡色で絹皮に類する(鹿兒島産)。
- 平柑子 ヒラカウジと讀む、カウジの一品種で果平たく室數多し。
- 庖丁蜜柑 甘代々の俗稱主として雪柑に使用(臺灣)。
- ヒラミレモン シイクワシャーと同種に與へられた早田博士の新稱なるも今不用に歸した。
- ホモサッサ Homosassa 甘代々の一米國品種。
- 本代々 回青橙に同じ。
- 本蜜柑 紀州蜜柑(小蜜柑)の異名。
- 蓬萊柑 川畑(鹿兒島)の一異名。又宇樹橘の一異名(日向)。
- 蒂 高 ホゾダカと讀む。紀州蜜柑の蒂端凸出せる一品種にて俗に茂八と言ふ。別に三寶の異名(長崎農試)。
- 百壽柑 金柑子(福岡)の一異名。
- 瓢 柑 中果變種系雜柑の一、果頸ありて延長する。
- 日向夏蜜柑 日向夏と略稱する。ユズ遠縁雜種で晩熟強健なる良雜柑



但し種子過大。學名 *Citrus Tamurana* HORT. ex TAKAHASHI
in Kankitsu p. 82, 1931。

I

- 印度蜜柑 大紅蜜柑の異名 (静岡)。
- 庵原椪柑 椪柑の静岡縣庵原村に於ける實生 (興津園試)。
- 岩井ジャボ 天狗に類し外形卵形ならざる一雜種 (土佐産)。
- 岩井柑 岩井ジャボに同じ (和歌山縣農試)。
- 伊豫ジャガタラ 金柑子 (福岡)に類する中果變種系 (代々區)雜柑。(廣島縣因島産)。
- 伊豫蜜柑 中果變種系 (代々區)雜柑の一、果稍圓錐で橙紅色、肉稍色淡き橙色、胚は綠色、品質必ずしも宜しとは云へぬも美麗なる故相當栽培せられる。

J

- ジャッフワ Jaffa. 甘代々の一品種。米國品にして眞正のパレスタイン種に非ず。米國にての誤用。
- ジャガタラ 大柚の異名、又海紅柑の異名。別に金柑子に似たる長形なる中果變種系 (代々區)雜柑。ジャガタラとは爪哇バタビヤ市の舊名。
- 上 柑 金柑子 (福岡)の一異名 (熊本縣及び長崎縣)。
- ジョツバ Joppa. 米國甘代々の一品種。此の名はパレスタイン種より來る如きも同地品とは異なるもの。

K

- カブチ ザボンの異名、皮厚しの意。別に沖繩産小果寬皮柑橘。
- カブス 代々の蔓の普通なる品種。外皮を蚊イブシに用うる故此の名がある。
- カブスユ 大分縣南海部郡明治村にてカブスと稱するもユズの雜種

- である。ユカウに似て居るが果色淡。
- 海紅柑 中間變種(ザボン區)の一品、古來本邦に産する。ジャガタラとも言ふ。
- 回青橙 代々の蔓の肥大せる一品種を本邦にてかく言ふ。本代々。
- 甘橙 甘代々の異名(肥後)。
- 廣東^{オレ}レ^{ンデ} 甘代々の一品種(興津園試)。
- 川端 黄色の小果寛皮柑橘の一(薩摩産)。
- 川筋 喜界蜜柑に類する寛皮類で肉團と外皮との間に空間大なるもの、櫻島産。
- 河内蜜柑 八代蜜柑の異名。
- カブチ カブチに同じ。沖繩名。川筋と同一種に屬す。
- 花良治蜜柑 ケラジミカンと讀む、喜界蜜柑に同じ。
- 吉祥果 キチジャウクワと讀む。瓢柑の一異名(立花伯農園)。
- 喜界蜜柑 一名ケラジと稱す、一種の寛皮類なるも未だ學名がない。断面芳香あり、極早熟で青くとも可食。
- 菊橙 菊目代々とも言ふ。四國北部産の果面に條溝あるユズ遠縁雜種。別にカブス代々の果の基部の短溝ある品種。
- 菊蜜柑 地蜜柑の果面に溝條線多き品種(和歌山産)。
- 菊章柑 斑入カブスの一異名(鹿兒島)。
- 菊温州 温州蜜柑の果に縦の稜起ある品種。
- 菊柚 キクユ。菊橙(菊目代々)の異名(和泉)。
- 菊座橙 回青橙と言ふに等しく蔓の肥厚せる代々。菊橙一名菊目代々の異名たる事もある。
- 黄蜜柑 静岡縣産の山吹に等し。
- 金橘 寧波金柑の一異名(福岡縣立花伯農園)。現在支那では四季橘の異名となり居る處あり。
- 金柑子 福岡縣に普通なる中果變種類(代々區)の一園藝種。學名 *Citrus obovata* HORT. ex TAKAHASHI in *Kankitsu* p. 84, 1931.
- 金柑子温州 金柑子の果肉温州蜜柑の性質を帶ぶるもの(大分縣)。



- 金香橙 金九年母(即ち甘代々)の一誤稱。
- 金九年母 甘代々の種類を薩摩にてかく言ふ。キンクネブと讀む。
- 金 九 金九年母の略稱なるも和歌山縣の名稱で温州蜜柑の異名である。
- キノス 木の酢の意。小果寛皮類に似たるユズの雜種(静岡縣)。
- 絹 地 大柑子に似たる一雜柑(土佐産)。
- 橘 仔 キラーと讀む。臺灣にて小果の柑橘を呼ぶ、タチバナ、四季橘酸橘等の總稱。
- キズ 小形寛皮類に似たるユズの一雜種(福岡縣)。
- 小林蜜柑 夏橙の果肉温州蜜柑の性質を帶ぶるもの(福岡縣)。
- 高田蜜柑 カウダミカンと讀む。肥後の地名より來る。小蜜柑の丸形の一品種。
- 香 椽 シトロンの漢名。枸椽とも云ふ。
- 神代橘 カウジロキツと讀むが正しきも通常ジンダイキツと言ふ、絹皮の一變種。又長崎縣にてカウジロと言ふは地蜜柑の異名。
- 紅 柑 臺灣名にしてアンカムと讀む。大紅蜜柑の異名。
- 香 柑 臺灣にて代々の異名、ヒョンカンと讀む。
- 小蜜柑 紀州蜜柑の異名。
- 小夏蜜柑 日向夏蜜柑に同じ。
- 高橋桶柑 コウショウタンカンと讀む。桶柑の稍、大果高形で晩熟の一變種(臺灣)。
- 香 橙 本邦に於ては九年母を指す。支那にてはユズの一品種。
- 黒島蜜柑 小蜜柑の扁平淡色で肉味不良なる一品種。
- クサイライム 廣東レモンの果稍、平たく濃色ならざる淡黄品の一。クサイとは南洋 Kusnie 島を言ふ。
- クサミカン 地蜜柑の異名(静岡縣)。
- 楠の瀬 レモンの一品種(興津園試)。

M

- マツカーチー McCarty. グレープフルートの一品種。
- 豆金柑 金豆(キンヅ)の一異名(攝津地方)。
- マルチー
ス・ブラ
ッド Maltese blood. 血蜜柑即ち甘代々の血瓢一品種。
- 丸柑子 土柑子に同じ。
- マルメラ 中果變種類(代々區)の一雜柑(興津園試)。
- マルメロ 金柑子の一異名(山口縣)。
- 圓蜜柑 マルミカンと讀む。地蜜柑の異名(長崎農試)。
- 丸蜜柑 紀州蜜柑の一品種。形小さく室數少きもの紀州にて最も普通なる品種。
- マーシュ Marsh 無核グレープフルートの一品種。
- 麻豆文旦 小形の梨形をなせるザボンにして白肉なるも最良系は肉微紅あり、無核極めて早熟のもの(臺南州麻豆産)。
- マトリ蜜柑 小果寬皮類の一種(鹿兒島産)。
- 明治柑 旭柑に似て肉色淡き一中間系(ザボン區)雜柑。(廣島縣因島産)。
- 明和金柑 寧波金柑の一異名。
- メヂトラ
ネアン・
スキート Mediterranean Sweet. 甘代々の米國一品種。
- ミリン柑 中果變種類(代々區)の一種。果底瓢柑狀に延長するも果肉橙色(廣島縣因島産)。
- 餅 柚 ユズの一雜種。
- 茂 八 小蜜柑の果底凸出せる一品種(紀伊)。
- 無核紀州 紀州蜜柑(小蜜柑)の無核なる一品種(和歌山縣)。

N

- 長蜜柑 果卵形をなせる寬皮類種子は九年母に似る(攝津池田)。



- 夏蜜柑 夏橙の異名。別に廣島縣に普通なる一寬皮類（ミクロアクルーメン區）。果項明瞭なる凹圈あり。又紀伊にて地蜜柑の異名。
- 夏サンス 中間變種系（ジャボン區）一雜柑（九州産）。
- 夏朱欖 ナツジャボン。金柑子の小しく大なる如き中間雜種（ジャボン區）の一雜柑（立花伯農園）。
- 夏温州 大身甘橙に同じ。
- ネブレンシヤ Navaleucia. ワシントン・ネーヅルの重囊なき一品種。
- 年柑 桶柑（タンカン）の異名。
- 二度成蜜柑 地蜜柑即ち天台山橋本地早に同じ。再成蜜柑とも記す。
- 牛奶金柑 本來は支那で長金柑の異名、本邦では寧波金柑の一異名（長崎縣）。
- ニュー・サンマー New Sumner の意。日向夏蜜柑の變稱。

〇

- 大平 オホビラと讀む。紀州蜜柑の一品種。果大きく扁平にして室數多きもの。
- オガコウ（黄金） 沖繩の一小果寬皮類。シイタワシヤーに類し外皮甚だ寬き品。
- 黄金橘 金柑子（福岡）の廣島縣に於ける異名。
- 大蜜柑 地蜜柑の異名（大分縣）。
- 大身甘橙 大唐蜜柑に類する中果變種（代々區）の一雜柑。
- 大身温州 大身甘橙に同じ。
- オナカシマ 宇樹橘の異名（大分縣）。又温州蜜柑の異名（長崎及び佐賀縣）。
- オクハイ ト オトミカ ン Otaheite. 即ち廣東レモンの紅果にて乳頭ある一變種。
- 大唐蜜柑 六月蜜柑に類する小果寬皮類の一種。
- 大山柑 甘代々に似たる一雜柑（土佐産）。又沖繩産カブチの一種。
- タングロに似たる一雜柑（土佐産）。

大 柚 ジャボンに類し果面に溝起あり、大形凹入油胞ある一雑柑
(中間系)。ジャガタラ、鑷柚又獅子柚とも言ふ。

P

パーソン
ブラウン Parson Brown. 甘代々の米國に於ける早熟一品種。
ポンデロ
ーサ Ponderosa レモンの大果變種、性質レモンに比し價值少い。

R

李 夫人 李夫人橘又リウジンと言ふ。温州蜜柑の古名なるも今も
中國、四國、九州の一部にて用う。
リスボン Lisbon. レモンの一品種。
六月蜜柑 夏蜜柑に類し果頂に顯著なる凹圈ある果を有するも、果色、
肉色共に淡。(鹿兒島縣小根占産)。
鑷 柚 大柚(オホユ)の一異名。
ルビー Ruby blood. 血蜜柑即ち甘代々の血瓢系一品種。果肉の紅
色色素強からず。
ルージレ
ゴン Lue Gim-gong 米國産甘代々の一晚熟品種。

S

サケノカ
ン 宇樹橘の異名(薩摩)。
櫻島蜜柑 小蜜柑の普通品で小果扁平なるもの。鹿兒島縣下の地名
より來る。
三 寶 雑柑の一種、中間變種類(代々區)なるも寬皮類(アクル
ーメン區)の性質を混ぜる故雑種である。極めて豊産、
晩熟なる故和歌山縣下に經濟的栽培あり、福岡縣にも至
適である。學名 *Citrus sulcata* HORT. ex TAKAHASHI, in Kankitsu
p. 84, 1931。
山 橘 タチバナの濟州島異名。
サンス ザボンの一酸果品種。又海紅柑の一異名(立花伯農園)。
酸 橙 カブス代々の異名。



- 薩摩蜜柑 金九年母に鹿兒島で斯かる新名を附したもの。Satsuma
は温州蜜柑の英名。
- サワーオ
レンジ Sour Orange. 代々と同意義なるも西洋のサワーオレンジは
日本の代々と別品種、果扁平で代々程濃色ならず、砧木
としては代々より優れて居る。
- 青 橘 濟州島産。小果寛皮柑橘の一種。
- 雪 柑 スイカム又セイカムと讀む事あり。臺灣産甘代々の品種。
- セントミ
ケル St. Michael. 甘代々の米國一品種。目下ペーパー・ライン
ド Paper Rind と通稱する。
- 重富金九
年母
四季成金
柑 シゲトミキンクネブと讀む、天狗蜜柑の異名。
- 綺 橙 シマダイダイ。代々又はカブスの斑入品。
- 綺温州 斑入温州と同じ。
- 支那蜜柑 元霄柑に似た一寛皮柑橘。但し不安定總稱に用ゐらるる
事あり。又紅蜜柑の異名（興津園試）。
- シントク 絹皮に似たる中間變種類（ザボン區）の一種。
- 白羽柑子 白輪柑子とも書く、平柑子の一異名。
- シレンボ
ウ 金柑子（福岡）の大分縣に於ける一異名。
- シリプト 天狗の小形なる如き一雜柑（土佐産）。
- 尻高蜜柑 瓢柑の異名（大分縣）。
- 獅子柚 大柚の異名。
- 猩々柑 大紅蜜柑又は小紅蜜柑の異名。
- 小 橘 小紅蜜柑の濟州島異名。
- 周次蜜柑 地蜜柑の廣島縣異名。
- 朱 橘 小紅蜜柑の支那名。日本では之を大柑子と同一に用うる
者あり（立花伯農園）、又大紅蜜柑とも混稱するが、爾後
之を小紅蜜柑に限定したがよい。
- 朱 欖 ジャボン殊に内紫の異名。支那温州では代々の異名。
- 臭 橙 代々の一品カブスの異名。

- シトレンジ 枳殼と甘代々との一代雜種の總稱。
- スドー 小果寬皮類に似たるユズの一雜種（土佐産）。
- スジャボ 中果變種類（代々區）の一雜柑（土佐産）。
- 酢蜜柑 ユズの遠縁雜種の一（土佐産）。
- スルガユカウ カウジの單胚なる一變種駿河地方にて單にユカウと言ふ。
- スキート Sweet Orange. 甘代々と同意義。
- オレンジ
- 酸柑 スンカンと讀む。臺灣にて虎頭柑の小形變種。

T

- 立花 タチバナ（橘と記す）の事、又薩摩で川加の異名。又福岡では温州蜜柑の一異名。
- 橘柑子 タチバナの一異名（長崎農試）。
- タチボ タチバナの異名（紀伊）。
- 田熊グレープフルーツ 広島縣因島産の絹皮に似たる一雜柑、決して眞正のグレープフルーツに非ず。
- 臺灣橙 タイワンダイダイ。虎頭柑の異名。
- タロガヨ カブチ、黄金の類で最晩生の變種（沖繩）。
- タンゼロ Tangelo. グレープフルーツと大紅蜜柑との一代雜種の總稱。
- 天狗蜜柑 中果變種類（代々區）雜柑の一で果紅色美麗である、果味悪く種子綠胚あり。
- 天明金柑 寧波金柑の一異名、明和金柑より誤稱。
- 鐵砲金柑 寧波金柑の一異名、天明金柑より更に訛傳。
- テンプルオレンジ Temple Orange. 米國フロリダ産タンゼロの一種。
- 唐橙 鳴門に類せる中果變種系（代々區）一雜柑（熊本縣）。
- 唐金柑 四季橘の一異名（長崎其の他）。
- 唐橘 洞庭橘に類し果長倒卵形大形の一變種（濟州島）。
- 凸柑 椪柑の異名。
- トコユ 花柚に同じ。
- 唐クネブ 九年母の異名（鹿兒島縣大島）、又唐九年母は宇樹橘の異



名 (大分縣)。

唐 久 唐九年母の略にしてジャボンの異名。又其の一品種をかく呼ぶ事あり。

唐 蜜 柑 一種の寛皮類 (鹿兒島縣下に産す)。葉長く、果地蜜柑に似る。又甘代々の異名 (土佐・日向等)。又日向にて宇樹橘の異名。又鹿兒島・愛知で温州蜜柑の異名。

トムソン Thomson Navel. ワシントン・ネーブル・オレンジの米國に於ける早生一品種。

土佐蜜柑 旭柑の一異名 (鹿兒島)。

土佐柚 ユズの一雜種。

橙子橘 濟州島産小果寛皮類の一種。

斗 柚 紅肉圓狀卵形大形のザボン (臺灣産)。

トライア Triumph. グレープフルートの一品種。

土柑子 柑子 (カウジ) のタイプ、即ち果小にて室數少ないもの。

ソル柑 瓢柑の異名。又釣柑は長崎縣にて宇樹橘の一異名。
(鶴柑, 釣柑)

U

内 紫 ジャボンの異名。白肉のものは含まぬ筈なるも嚴密なる區別はない。本邦では屢、朱欒と記す。

内 朱 ジャボンの果肉紅色を呈する品種を言ふ。臺灣の斗柚の如き夫れなり。

大菌香橙 ウドンクネブと讀む。鹿兒島縣下大菌より來る。ジャボンに似て小なる紅肉の一雜柑 (長崎農試)。

宇 樹 橘 日向夏に類するユズの遠縁雜種。果色肉色淡色なるも寛皮類である。又熊本縣河内村にては温州蜜柑の一異名。

右 近 橘 タチバナの一異名。

薄皮蜜柑 柑子 (カウジ) の異名。

温州椪柑 臺灣にて宇樹橘の異名。

V

- ブレンシヤ
ヴァイラフランカ
Valencia. 米國甘代々の晩熟一品種、舊名 Valencia late.
Villa Franka. レモンの一品種。

W

- 倭橋 地蜜柑に同じ。(濟州島名)。

Y

- 山吹 宇樹橘の異名(熊本)、静岡縣には別に一種あり、中果變種類(代々區)。
八房 金柑子の一異名(宮崎)。
八代蜜柑 別に小蜜柑の一異名、眞正の八代蜜柑(紀伊)とは異なる。
四度成蜜柑 地蜜柑の異名(宮崎縣)。二度成蜜柑の訛傳か。
柚 ヌズの異名。臺灣では小果早熟長卵形のもの即ち文旦と別稱せる類を除き他のザボンを總稱す。
弓削瓢柑 ヌゲヘウカンと讀む。瓢柑に類し肉淡色なる一種。
ユカン 柚柑。ユカウに非ず山蜜柑の一異名(立花伯農園)。又薩摩にて宇樹橘の異名。
柚柑 ヌカウと讀む。四國には古來之を産す、ユズの雜種にして果形九年母に類するも稍、淡色油胞點大である。又廣島縣大崎下島(御手洗)にては温州蜜柑の異名。
ユノス ヌズの異名(土佐、長崎等)。
ユレカ Eu eka. レモンの一品種。
柚子橘 宇樹橘の異名(山口縣)。

Z

- ゼンモン蜜柑 地蜜柑の一異名(大分縣)。
ゼノア Genoa. レモンの一品種。